

インドネシアの歌 (5)

別れの歌編

決まり文句 asal... (であれば) の意味

恋愛について語る資格は、筆者を逆さ吊りにしてみても何処からも出てこない。だから論評は控えるが、インドネシアの歌に出て来る“別れのシーン”を独断と偏見でみてみよう。

男性が恋人を故郷に残して、多分出稼ぎに都会へ出て行くのであろうが、別れの言葉として「きっと迎えに帰って来る」と言う。守れるかどうかは別として、これは世界中何処でも同じだと思う。ところが、インドネシアの歌でどうも気にかかるセリフがある。それが上述お決まりのセリフの後に“asal kau menanti”とか“asal kau setia”とか何故か条件が付くのである。その意味は“待っていてくれ(さえし)たら”、“誠実であつたら”となるのだが、どうもじっくり来ないものがある。条件を求める asal という言葉に何か別の意味があるのではないか。辞書で調べては見た。特に期待するような意味が見つからない。ひいき目に見て、仮定法の願望が含まれているのではないかと信じたいが、確証はない。

参考までに歌詞を抜粋すると、Pergi untuk kembali という曲には“Hanya sekejap saja ku akan kembali lagi, asalkan engkau tetap menanti” (ほんの瞬きする間に帰ってくるよ、チャント待っていてくれるならという意味)。題名そのものも逐語訳でいくとちょっとインチキ臭いところがあるが、歌そのものは美しいナツメ口で、なんでもリバイバルで最新のリズムで復活したとの情報もあるほどの歌。

Saling Percaya という曲では“Cinta kasihku padamusampai matipun aku jalani, asal kau setia”(私の愛は死んでも貫き通すよ、あなたが真実である限り)。題名は互いに信じあうという意味であるが、信じつづけるのは難しいことなのであろう。現代人、特に若い世代は、常に口に出して確かめ合うことが必要らしい。自身を振り返ると、もう何十年も“Saya cinta padamu.”という言葉をついたことが無い。

恋愛に酔った若者の(たぶらかし)セリフの代表に“Tinggi Gunung Seribu Janji” というのがある。意味は山ほどの約束というか、比喩的に恋愛中の美しい約束を意味するのだが、我々のレパートリーにもそっくりそ



のまま同じ題名の曲がある。ここでも“Seribu tahun kau berjanji, seribu tahun ku menanti. Asal saja kau setia, aku tak melanggar janji”(生涯の約束、ずっとずっと待つよ、真実であるなら、決して約束を反故にしないよ)と歌われている。ここの seribu は単なる千(1,000)ではなく、seribu-satu 即ち千一(夜)で延々とつづくという意味であるが、やはり asal が使われている。

ついでに、setia には従属関係で忠実と言う意味もあるが、歌の中に男優位の社会が歌われているのかとも思われる。それでは母系社会のメナンカバウは? 興味の湧くところだが、残念ながら歌のストックが無い。

Asal (saja)には「…ならば」という意味のほか「…して欲しい」という強い願望が含まれていなければ上述のような歌が可哀想である。このあたりは、インドネシア人社会に入り込んで長く生活された方なら、的確な解釈が可能なのだろう。

余談だが、「…しましょうか?」とお手伝いさんが言う時に“Maukah Tuan, saya bantu” というのを聞いたことはないだろうか? 私は初め、Maukah?を「望む(みます)か?」と聞いた。しかし、本当の意味は「…いたしましょうか?」という意味だった。ずっと後になって理解した。言葉と言うのはその社会に入らないと本当の意味は分らないもの。と言うことで asal には「そうして欲しい」という嘆願、願望の意味があると期待するところだ。

とはいえ、恋愛中の口約束は果たしてどれほどの効力があるだろうか。我々ラググ会の歌の中には、上述 asal saja ... という表現ではないが「都会に出ていった恋人からの連絡を長いこと待っていた、やっと手紙が届いた、期待に胸を膨らませて封を切ったら、中は空っぽだった」(曲名 Sampul Surat)とか「長いこと便りが無かったがやっと来た、ところがそれは(他の人との)結婚式の招待状だった」(Surat Undangan) というのがある。都会に出て行った男が田舎に帰らないという物語は、極ありふれた話だったのであろう。

恋愛は男女の間、泣く男が出てきても不思議ではない。「何処に行くのか聞かないでくれ、とても辛い、辛抱できない、望みも無くなった、蜂蜜の様な甘い毒をもったあの赤い唇、ああ早く忘れたい」(曲名 Jangan ditanya より)と、歎く男もいるのである。(渡辺重視)